



TUFS  
Cinema

# ウズベキスタン民族誌映画上映会

バフシの療術と語りにも現れ出る、  
壮大なユーラシアの歴史

## 交霊と イスラーム

バフシの伝えるユーラシアの遺習

バフシ、それは霊媒にして、まじない治療師  
太鼓を打ち鳴らし、霊と相通じ、唯一神を想起し、療病にいそしむ奉仕者



2022年 **12** / **25** Sun.

13:00上映開始(開場12:40)

場所 **東京外国語大学**

アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール  
(東京都府中市朝日町3-11-1)

### 【プログラム】

- 映画『交霊とイスラーム：  
バフシの伝えるユーラシアの遺習』  
本編上映

- 講演・トークセッション

和崎 聖日 (監督・制作; 中部大学)

アドハム・アシーロフ (監督・制作;  
ウズベキスタン科学アカデミー歴史研究所)

坂井 弘紀 (和光大学)

〈司会〉木村 暁 (制作; 東京外国語大学)

### 事前登録制



入場無料/先着順/  
事前登録(定員250名)

※事前登録がなくてもご来場いただくことは可能ですが、会場入口で参加登録をしていただきますので、事前にご登録いただくとスムーズにご入場いただけます。定員を超える場合は、事前登録を済ませた方を優先させていただきます。  
※感染対策のため、必ずマスクを着用の上、ご来場ください。



制作者と専門家のトークが  
作品を大解剖!

上映作品:『交霊とイスラーム:  
パフシの伝えるユーラシアの遺習』

作品概要: 舞台は21世紀ウズベキスタンの2つの旧遊牧民系村落。体調不良を訴える患者のために、女性パフシたちが先祖伝来の治療儀礼にあたる。使われるのは、太鼓、鞭、供儀、竈、食布、水、小麦、数珠、スカーフ、…。この儀礼はいかに催され、いかなる意味をもつのか。彼女らは何を語るのか。ソ連時代はいかに回想されるのか。本作は、シャマニズム的交霊とイスラームの融合の位相に光を当て、土地の習俗に根ざしてきた福利のありようを当事者たちの独特の世界観とともに炙り出す。日本とウズベキスタンの気鋭の人類学者が送り出す、渾身の映像人類学作品。東京ドキュメンタリー映画祭2022入選作(2022年12月13日・22日 新宿K's cinemaで上映)。

監督: 和崎聖日、アドハム・アシーロフ  
撮影: シャルフ・ミルザー・イナムジャノフ、アドハム・アシーロフ、和崎聖日  
脚本・翻訳: 和崎聖日、木村暁  
音声: 矢野原佑史  
編集: 和崎聖日  
音楽: カフラマン・ラシドフ、ズルフマル・パフシ・シールナザロフ、ディムラド・イスラモフ  
制作: 和崎聖日、木村暁、アドハム・アシーロフ

2022年 / 日本・ウズベキスタン / ウズベク語 / 37分

主催: TUFS Cinema、東京外国語大学中央アジア専攻、科研費「現代中央アジアのタサウフをめぐる人類学的研究:スーフィー詩への注目から」(JP18K12604; 研究代表者:和崎聖日)、科研費「イスラームおよびキリスト教の聖者・聖遺物の人類学的研究」(JP19H00564; 研究代表者:赤堀雅幸)  
後援: 上智大学イスラーム地域研究所  
協力: 東京外国語大学多言語多文化共生センター

## トークセッション登壇者のご紹介



和崎 聖日 WAZAKI Seika

中部大学人文学部准教授

専門は人類学・中央アジア地域研究。昨年度、民族誌映画Guli Armug'on: Women's Local Islamic Ritual in Uzbekistan(2018年)を練り直した日本語字幕版『神授の花:フェルガナの女性とイスラーム』が東京ドキュメンタリー映画祭2021で入選し、東京と大阪で劇場公開される。本作『交霊とイスラーム』では、映像人類学分野で協働してきたアシーロフ氏と共に監督を務める。



アドハム・アシーロフ Adham ASHIROV

ウズベキスタン科学アカデミー歴史研究所民族誌学・人類学センター長

専門は民俗学・民族学。長年にわたってシャマニズム研究に従事。映画Guli Armug'onで和崎氏と企画・脚本・翻訳を分担。同作は英国、ウクライナ、セルビア、マケドニア、メキシコ、日本の民族誌映画祭で入選。ウズベク語の著書に『ウズベク民族の古代信仰と儀礼』(2007年)、『ウズベク文化における水』(2020年)などがある。



坂井 弘紀 SAKAI Hiroki

和光大学表現学部教授

専門は中央ユーラシア文化史、テュルク口承文芸研究。論文に「英雄叙事詩とシャマニズム:中央ユーラシア・テュルクの伝承から」(『和光大学表現学部紀要』15号、2015年)、「英雄叙事詩とシャマニズム2:中央ユーラシアの叙事詩語りとシャマン」(『和光大学表現学部紀要』19号、2019年)などがある。



木村 暁 KIMURA Satoru

東京外国語大学大学院総合国際学研究院講師

専門は中央アジア史。近年、和崎氏らの民族誌映画制作に参画。『神授の花』に続き、本作『交霊とイスラーム』でも脚本・翻訳を分担。和崎氏との共訳にハサンハン・ヤフヤー・アブドゥルマジド著「ウズベク語におけるクルアーンの解釈と翻訳について」(『日本中央アジア学会報』15号、2019年)がある。

TUFS Cinemaとは、東京外国語大学が不定期に開催する一般公開の映画上映会のことです。世界には、さまざまな価値観や言語文化的背景を持つ民族・宗教・社会が存在し、多種多様な「暮らし」が繰り広げられています。こうした世界の諸地域の諸相を映像とトークを通して見つけ、理解を深めていきます。

## ◎ 推薦図書——映画をより深く知るために



シャルル・ステバノフ、ティエリー・ザルコンヌ(著)、中沢新一(監修)、遠藤ゆかり(訳)

『シャマニズム』  
(創元社、2014年)

神仏や精霊と交流・交信する能力を持つシャマン。占い師であり、医師であり、人間世界と精霊が住む目に見えない世界の仲介者でもある彼女らの実像に迫る好著。カラー写真や図版を多数掲載。フランス語原題は『シベリアと中央アジアのシャマニズム』(2011年)。



赤堀雅幸(編)

『民衆のイスラーム:  
スーフィー・聖者・精霊の世界』  
(山川出版社、2008年)

民衆とイスラームとの関わりのなかから生まれた多彩な文化伝統。厳格な一神教という印象とは異なる、もう一つのイスラームを多角的に論じる。

この分野の第一人者、編者赤堀氏による民衆イスラーム論(序章・終章)、ならびに聖者崇敬と精霊信仰に関する論考(第4章)は必読。



荻原眞子、福田晃(編)

『英雄叙事詩:  
アイヌ・日本からユーラシアへ』  
(三弥井書店、2018年)

勇者や戦士の武勲をものがたる長大なことばの文芸、英雄の伝承。日本列島やユーラシア各地に広がる伝承と

文化を一線の専門家たちがひもとく。中央ユーラシアを対象とする坂井弘紀氏の論考「テュルクの英雄伝承」は、テュルク語英雄叙事詩とシャマニズムの結びつきに光を当てる。

お問合せ

東京外国語大学 広報・社会連携室(TUFS Cinema担当)  
TEL 042-330-5867 (平日9:00-17:00)

Email [tufscinema@tufts.ac.jp](mailto:tufscinema@tufts.ac.jp)  
Facebook [@tufscinema.pr](https://www.facebook.com/tufscinema.pr)  
Twitter [@tufscinema](https://twitter.com/tufscinema)

詳細は TUFS Cinema WEB にて  
<http://wp.tufts.ac.jp/tufscinema/>

